



カラオケを楽しむ会

代表者：後藤 秀作

毎年7月、12月に開催していますが、コロナ禍により、令和2年7月以降中断を余儀なくされています。特に、カラオケは飲食を伴い、飛沫感染の元凶とされる向きが多く、終息するまでは、ご法度とされています。

しかし、声を出すことは、高齢者施設のメニューにもあるとおり、健康の維持、増進に寄与していることは確かであり、できるだけ早い機会に、お腹の底から声をあげ、開放された気分になり、ストレス解消に繋がっていきたいと思っています。

令和3年7月もスルーしますが、いずれワクチン2回接種も進み、年末には、何とか開催できる条件が整ってくるのではないかと願っています。

ただ、目下のところ、都内の人流は増え、変異株も猛威を振るっており、厳しい状況に変わりはありませんが、この難局を乗り越えて、開催に漕ぎつきたいと思っていますので、その節には是非盟友の方々多数のご参加をお待ちしています。



カラオケ部会

代表者：高柳 康夫

設立：平成 14 年 3 月

毎年 2 回、7 月と 12 月に心が弾む時があります。それぞれ月末に近い時期に、東久留米駅北口の「オンチッチ」で「カラオケを楽しむ会」が開かれるからです。看板どおり「楽しむ」のが趣旨、参加者は思い思いの楽しい曲を披露、演歌はもとより、懐メロ、ムード歌謡、フォーク、軍歌などジャンルを問わず、歌が飛び交います。

ママの心のこもったお手製のご馳走に舌鼓を打ちつつ、好みのドリンクでエンジンを回し、盟友の歌を聴きながら、談論風発、歌い終わる毎に、拍手と歓声が沸きあがります。

楽しんでいるうちに時が流れ、いつの間にか「早稲田大学校歌」の文字が画面に浮かび、お互い肩を組みながら、大団円を迎えることとなります。中には、もっとご発声をという向きもありますが、そこは臨機応変、余韻を残しつつ「腹八分」のときも、はたまた居残って「余は満足」というときも、ケースバイケースで対応しています。いずれにしても、終わってみれば、お互い思い残すことはなく、明日への英気に繋がっていきます。